

今後の活動について

2023年5月20日
BHN広島事務所

「豪雨災害被災者支援事業」から「国内災害ICT支援活動拠点ネットワーク事業」への移行により、現地活動の内容を見直し、3拠点で一体性を持って取り組むようにします。

1. 毎月の研修テーマを決めて実施

- 短時間でも毎回研修の時間をとり、3か所とも同じテーマで研修を実施する。
- 活動報告の写真は研修場面を中心に撮る。

2. 研修は講座形式で実施

- 統一テーマの研修の時間は講座形式で行う。
- 講師が機能や操作手順などを説明し、参加者に一斉にやってもらうという形で行う。

3. 研修資料は独自に作成したものを使用

- 研修に使用する資料は、当方で研修のために独自に作成したものを共通に使用する。

4. 防災に役立つことは繰り返し実施

- 研修テーマは、防災と地域コミュニティの活性化に役立つ内容とする。
- 特に防災に関することは繰り返し研修し、確実に活用できるようにする。

5. 将来は3拠点を接続してオンライン交流も

- 当面は研修内容での3拠点連携とするが、将来は3拠点を接続してオンラインでの交流も目指す。
- そのためにオンラインミーティングの研修も行う。

● 6月のテーマ

「防災タイムラインを作成しよう(1)」

広島県が推奨している「防災タイムライン」を作成する。広島県は今年度中にはLINEを使ったシステムを県民に提供するとしているが、現時点では適当なデジタルのシステムはないので、紙ベースで作成する。

そのために、自宅付近で発生する恐れのある災害をハザードマップで確認(国交省の「ハザードマップポータルサイト」)したうえで、豪雨時等に危険度を気象庁の「キキクル」で確認できるように研修する。

以上のことを2~3回に分けて、確実にできるように研修を行う。

□ 7月以降のテーマ

7月も引き続き「防災タイムラインを作成しよう」の研修を行い、完了後次のような新たなテーマを設定して研修を実施する。

- 防災に関しては、防災情報受信、緊急時のLINE活用、防災ポータルから道路・河川情報、交通情報等を確認 など
- 地域での情報共有のために、写真の共有、動画を作成し共有、紙の情報をデジタル化して共有 など